

一般国道46号 かくのだて 角館バイパス

1. 事業の目的と概要 (1)

○事業の目的

盛岡秋田道路は、岩手県盛岡市から秋田県大仙市に至る地域高規格道路（延長約80km）である。

角館バイパス（自動車専用道路）は、盛岡秋田道路の一部を構成する延長6.1kmの一般国道46号のバイパスであり、秋田県と岩手県の連絡を強化し、地域間交流の促進に大きく寄与するものである。また、当道路の整備により、交通渋滞の解消や観光期の交通渋滞の緩和、冬期走行環境の改善など、幹線道路としての機能改善が図られる。

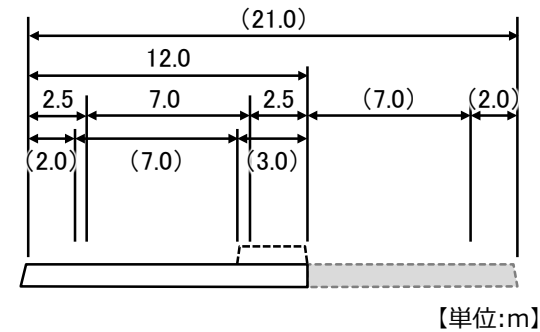
○計画概要

- 起終点 : 自：秋田県仙北市田沢湖小松羽根ヶ台
至：秋田県仙北市角館町西長野月見堂
- 延長 : 6.1 km
- 幅員 : 12.0 m (暫定2車線)
- 道路規格 : 第3種第1級
- 設計速度 : 80 km/h
- 都市計画決定 : 平成9年度
- 事業化 : 平成9年度
- 用地着手 : 平成11年度
- 工事着手 : 平成12年度
- 開通年度 : 平成24年度 (H25.3)

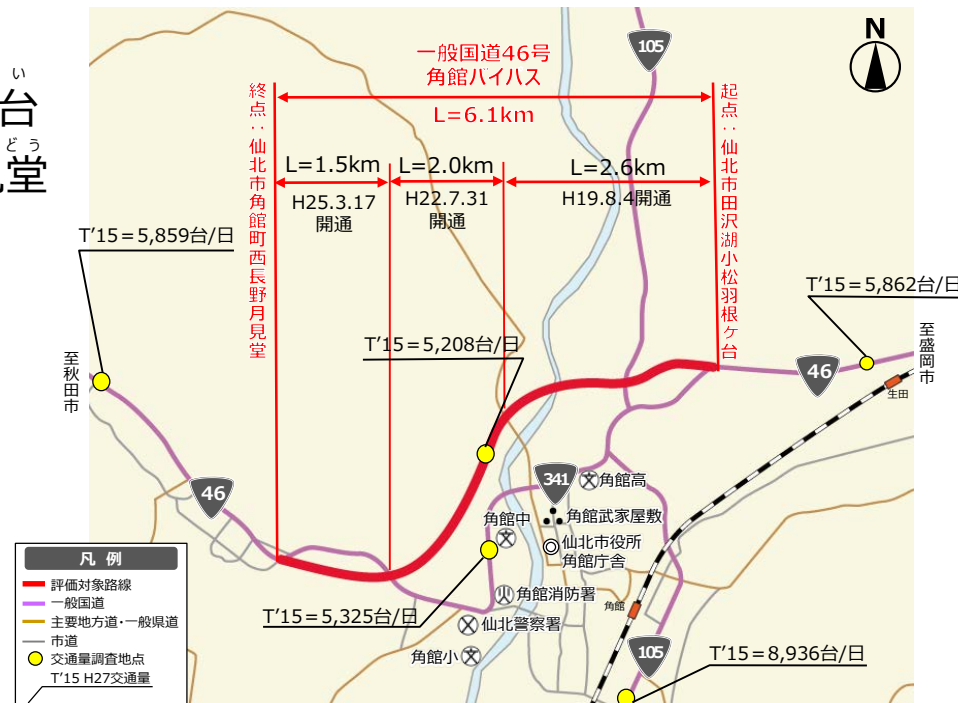
位置図



標準横断面図



平面図



1. 事業の目的と概要 (2) 整備状況



【写真①】開通後
 (角館バイパス起点部付近)



【写真②】開通後
 (角館バイパス小勝田ランプ付近)



【写真③】開通後
 (角館バイパス終点付近)





角館バイパス 全線6.1キロ開通

国道46号



角館バイパスの全線開通を祝って行われたテープカット

規制速度、時速70キロに

国土交通省が整備を進めてきた仙北市の国道46号角館バイパスの一部、角館町雲然一同町西長野月見堂間(1.5キロ)が17日、開通した。開通済みの田沢湖小松宇羽根ヶ台一帯間と合わせ、全線6.1キロ(片側1車線の自動車専用道路)が繋がった。全線開通に伴い、規制速度が時速60キロから70キロに上がった。

同日午前、同省秋田河川国道事務所角館防災ステーションで約100人が出席して開通式が行われた。佐竹敬久知事が「国道46号は重要な物流ルートで、東日本大震災でも被災地支援に大役を果たした。盛岡・秋田間の高規格道路整備は本県の発展に極めて重要。開通を契機に地域の一層の発展を祈る」とあいさつ。バイパスの西長野側入り口に移動し、テープカットで開通を祝った。午後2時から一般車両が通行可能となった。

国道46号(盛岡市・大仙市協和)は角館地区で直角カーブや急勾配の部分があり、大勢の観光客が訪れる花見シーズンには著しく渋滞していた。これを解消するためバイパス整備が1997年に事業化し、2001年に着工。07年

に田沢湖小松・角館町小勝間(2.6キロ)、10年に小勝田・雲然間(2.0キロ)が開通した。総事業費は17.2億円。(菅原潤)

大型クルーズ船寄港

秋田港 外国人ら観光楽しむ

英国船籍の大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が25日、秋田港に寄港した。今年、秋田港にクルーズ船が寄港するのは初めて。外国人観光客らが下船し、県内観光を盛り上げた。

午前7時ごろに着岸。岸壁 秋田市や男鹿市、仙北市などでは市女交際の小町地や秋田犬が乗客を出迎え、なまげ太鼓の演奏も披露された。乗客はカメラで写真を撮ったり、埠頭に設置した土産物コーナーを眺めた。その後、乗客は600人の予約割を外国人が占める。妻と香港から訪れた男性(78)は「角館の桜と、韓国・釜山港を7つの港に立ち寄り、この日は函館港、北海道に訪れたい」と向け出港した。



秋田港に寄港した大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」



秋田港に寄港したダイヤモンド・プリンセス号から下船し、県内観光に向かう乗客

さきがけ動画 19日

2017年のクルーズ船入港予定

入港日	船名	乗客定員(人)	接岸場所
4月25日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	秋田港
27日	ばしあひくいひいず	476	秋田港
5月9日	飛鳥II	872	秋田港
11日	コスタ・ピクトリア	1,928	秋田港
12日	ばしあひくいひいず	476	船代港
19日	ロストラル	264	船代港
20日	ブレンズ	164	船代港
21日	ロストラル	264	船代港
23日	コスタ・ピクトリア	1,928	秋田港
6月5日	にっぽん丸	398	秋田港
21日	飛鳥II	872	秋田港
7月5日	にっぽん丸	398	秋田港
7日	ばしあひくいひいず	476	秋田港
8月3日	にっぽん丸	398	秋田港
4日	飛鳥II	872	秋田港
5日	にっぽん丸	398	秋田港
6日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	秋田港
9月3日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	秋田港
7日	飛鳥II	872	秋田港
12日	にっぽん丸	398	秋田港
15日	シルバー・ディスカバラー	120	船代港
18日	コスタ・フォーチュナ	2,716	秋田港
10月7日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	秋田港
15日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	秋田港
20日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	秋田港

※秋田港寄港標準とも、3月31日時点。乗客定員と実際の乗客人数は客室人数の設定などにより差がある

今年過去最多26回

経済波及効果を期待

本県の3港(秋田、能代、船山)には今年、過去最多となる26回のクルーズ船の寄港が予定されている。一度に千

人単位の旅行客が立ち寄り、飲食や土産代などの消費額は1人当たり1万円を越え、観光客の増加は、地域への経済波及効果は大きい。

本県は5年前ほど前から誘致活動に力を入れ、運航会社主催のセミナーに参加して業界とのつながりを深めたり、佐竹敬久知事によるトップセールスを行ったりしてきた。

地道な取り組みが実り、今年にはハマダ船務の「プリンセス号」(672名)、イタリア船務の「コスタ・フォーチュナ」(10万2609名)の2隻が初来航。2019年4月には同社の豪華客船「クイン・エリザベス号」(9万9000名)も寄港する。

国土交通省15年にもまとめた「海客別クルーズ船寄港実態」によると、秋田港は14回で、

クルーズ船が停泊する秋田港の中島埠頭には乗客向けの常設施設がなく、観光客は臨時の物販売場の屋根付きスペース、公衆トイレを設ける計画だ。県港務課は「港の経済波及効果を期待している」と話している。

全国19位。東北では青森(4回)に次いで、全国でも多い。全国で最も多い博多(25回)に比べて、東北は全国的に寄港実績が少なく、一港の機能強化や観光客の受け入れ体制の整備が課題(県港務課)となっている。

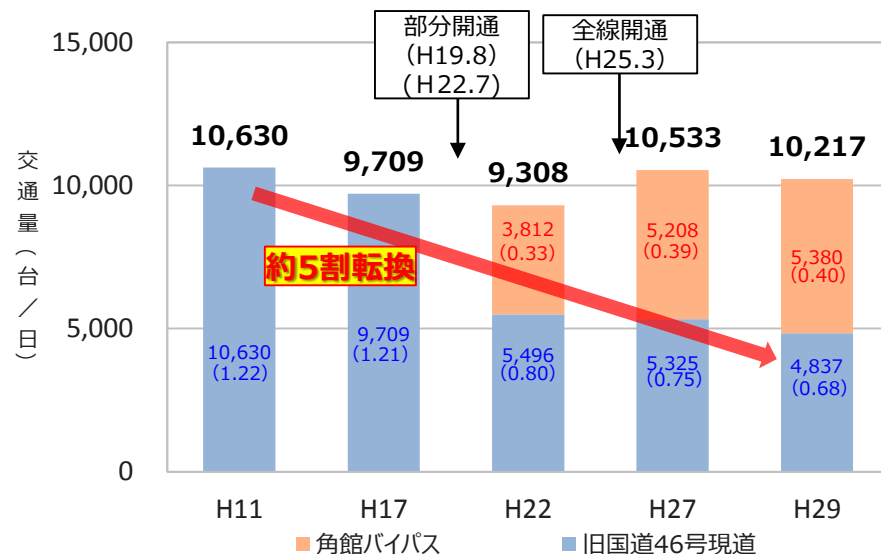
2. 事業効果の発現状況 (1) 混雑緩和

- ◆角館バイパス整備により旧国道46号から通過交通が転換し、交通が分散。(旧国道46号:約106百台/日→約48百台)
- ◆旧国道46号の混雑度は、1.00以下に改善。※旧国道46号は、秋田県に移管され、現在は国道105号及び国道341号
- ◆観光期の混雑が緩和され、主要渋滞ポイントが解消。

▼角館バイパスと旧国道46号の交通量



▼角館バイパスと旧国道46号現道の日交通量の推移 (A-A'断面)



※ () 内は路線別混雑度 (混雑度: 交通量を交通容量で除した値)

資料: H11~H27は全国道路・街路交通情勢調査、H29はトラコンデータ (10月平日平均)

現道 (旧国道46号) 川原町交差点付近



撮影日: 平成18年4月



撮影日: 平成29年5月

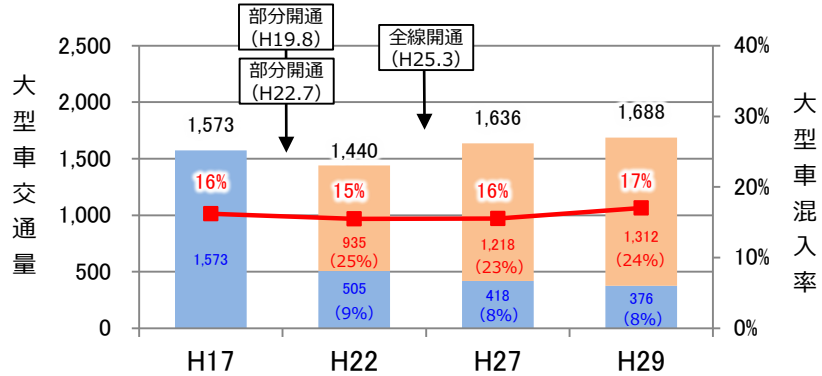
角館バイパス: H25.3開通区間



2. 事業効果の発現状況 (2) 事故減少

- ◆角館バイパス整備前は、物流大型車等の通過交通が通学路となっている市街地部に流入する事で事故危険性が高い状況。
- ◆大型車交通が角館バイパスに転換したことで死傷事故が約8割減少し、特に冬期死傷事故は約9割減少。地域や運転手からも危険性減少等の声も上がり、安全性が向上。

▼対象地域の大型車交通量の変化



▼市街地を走行する大型車

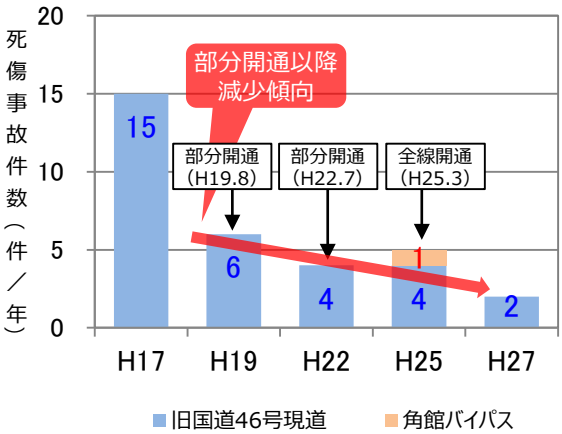


▼地域住民、道路利用者の声

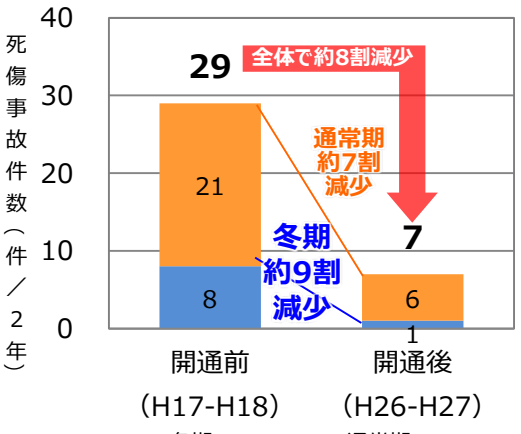
- 現道を走るトラックなどの**大型車両が少なくなり、安心して運行**できます。(路線バス会社：平成26年3月)
- 旧国道46号現道の交通量が減少し、**通学路の安全性が向上**しました。(教育関係者：平成26年2月)
- 角館バイパス走行時には、周囲に民家等がないため、**走行時に歩行者に対する危険性が減少**しました。(物流事業者：平成26年2月)

※ () は路線別の大型車混入率 (大型車混入率：全交通量に対する普通貨物車、バスの交通量割合)
 資料：(H11~H27) 全国道路・街路交通情勢調査、(H29) トラカンデータ 観測地点 (左地図のA-A'断面の位置)

▼死傷事故件数の推移



▼季節別死傷事故発生件数



資料：イタルダデータ

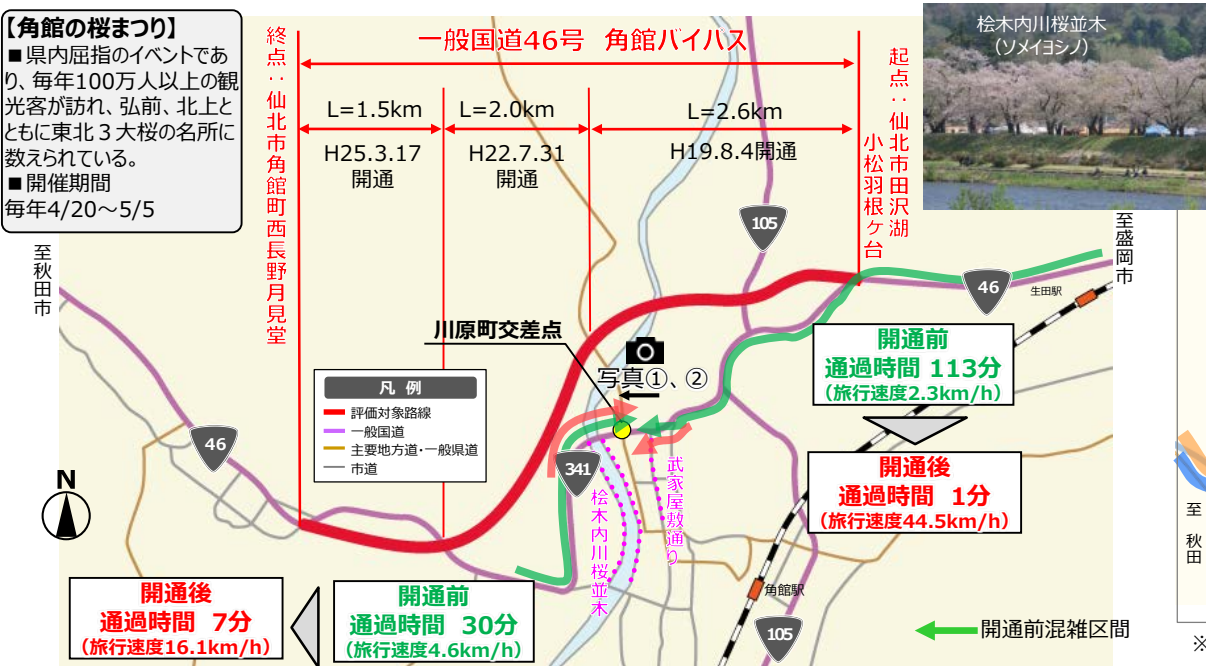
資料：イタルダデータ

資料：イタルダデータ

2. 事業効果の発現状況 (3) 1/2 角館桜まつり期間中の混雑緩和

- ◆角館バイパス整備前の「角館桜まつり」では、期間中に市街地通過に最大約2時間を要する著しい交通混雑が発生。
- ◆角館バイパス整備により案内看板による観光バスを誘導する渋滞対策が可能となり、大幅に混雑を緩和。

▼観光時期（桜まつり期間中）の通過時間と旅行速度の変化



※角館桜まつりの人出状況が同程度の日で比較
 資料：渋滞調査（開通前：H14.4.21（約15万人の人出）、開通後：H29.4.30（約12万人の人出））

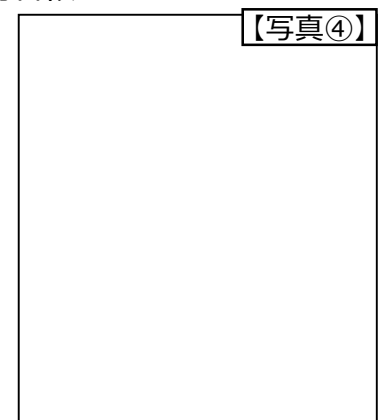
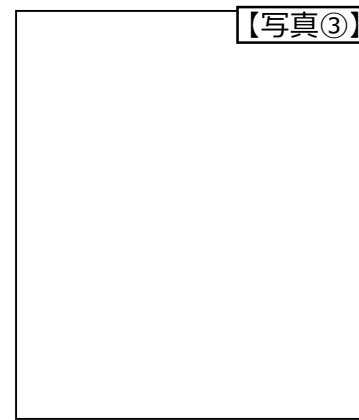
▼桜まつりシーズンの混雑緩和状況（旧国道46号 川原町交差点）



▼角館バイパスを活用した観光期の渋滞対策



▼案内看板

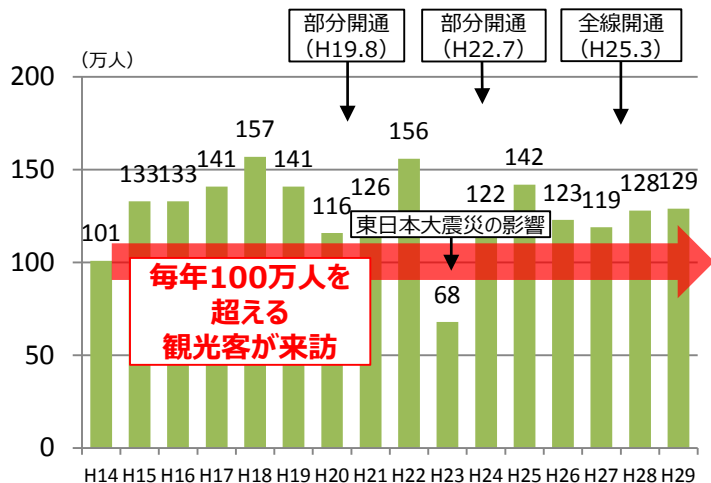


撮影日：平成27年4月

2. 事業効果の発現状況 (3) 2/2 角館桜まつり期間中の渋滞緩和

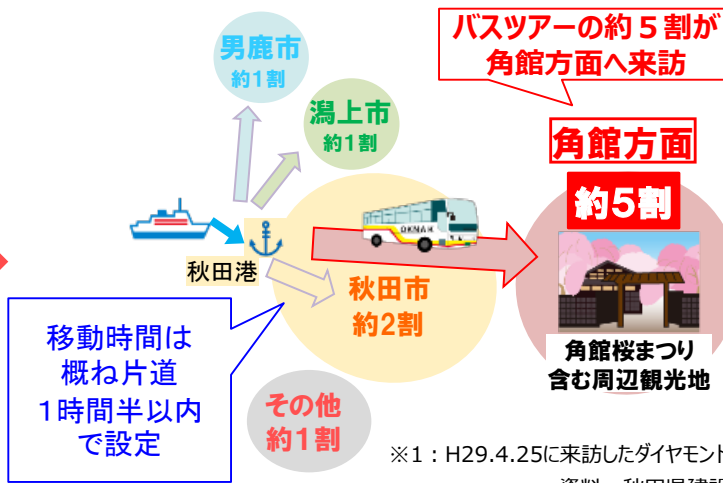
- ◆角館桜まつり来客数は毎年100万人超であり、秋田港に寄港する大型クルーズ船のオプションバスツアーの約5割が角館桜まつりへ来訪。
- ◆「角館桜まつり」に訪れる自動車の通過時間は最大約112分短縮。観光バス運転手の約8割は混雑緩和を実感。大型クルーズ船ツアー移動時間が概ね片道1時間半以内で設定される中、滞在時間増や円滑なスケジュール立案が可能になる事で観光振興に寄与。

▼角館桜まつり入込客数の推移



資料：秋田県観光要覧

▼大型クルーズ船のオプションバスツアーの行先割合 ※1



※1：H29.4.25に来訪したダイヤモンド・プリンセス号の実績

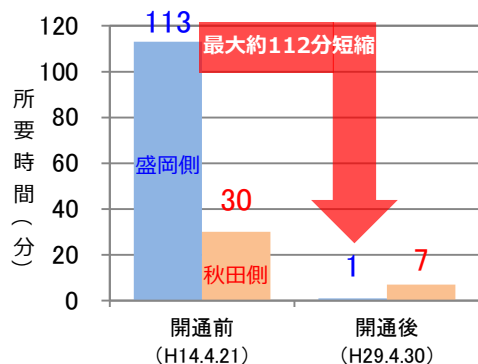
資料：秋田県建設部港湾空港課

▼角館桜まつりを楽しむ外国人観光客



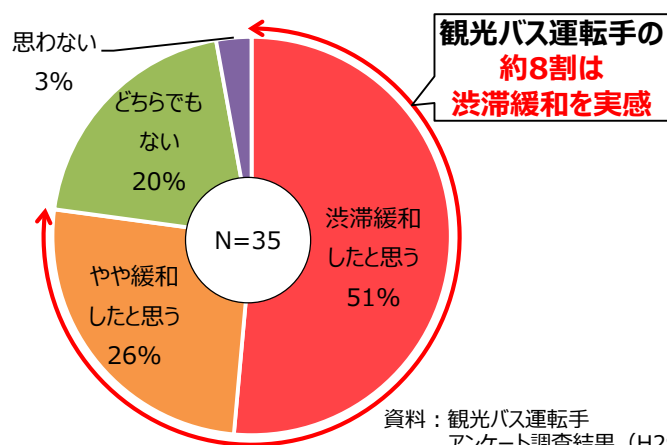
撮影日：平成29年4月25日

▼川原町交差点の通過時間の変化



資料：渋滞調査 (開通前：H14.4.21、開通後：H29.4.30)

▼国道46号の渋滞状況の変化



資料：観光バス運転手アンケート調査結果 (H29)

▼観光バス事業者及び運転手の声

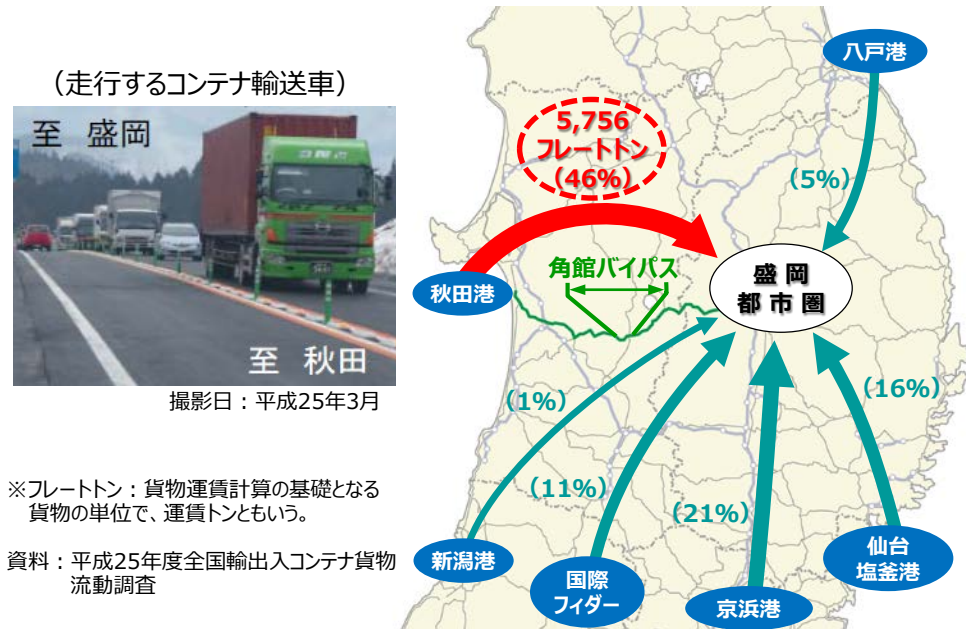
- 以前は田沢湖から2時間かかったこともあったが、今は遅れても10~15分程度遅れるだけになりました。(平成25年5月3日)
- 観光期は時間が読みにくいですが混雑が緩和され、スケジュールを立てやすく、滞在時間も増やすことができるようになりました。
- 道路が広く、信号もないのでとても走りやすくなりました。(平成29年4月30日、5月3日)



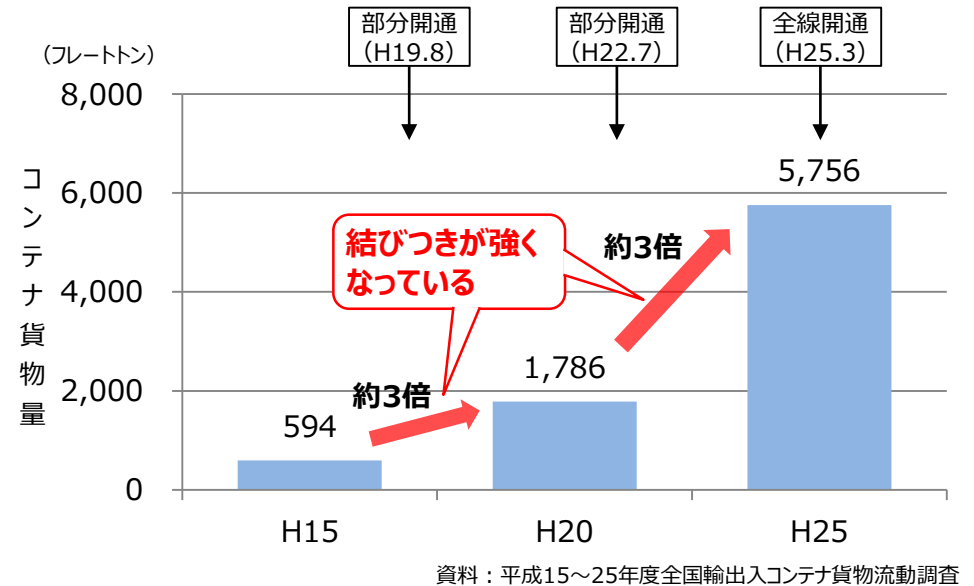
2. 事業効果の発現状況 (4) 盛岡～秋田間の物流支援

- ◆盛岡都市圏の輸入コンテナ貨物の約5割が秋田港からの搬入であり、搬入量は年々増加傾向。
- ◆角館バイパスを利用する物流事業者の約3割は秋田市⇔岩手県の利用。広域物流を支える路線として地域経済活動を支援。

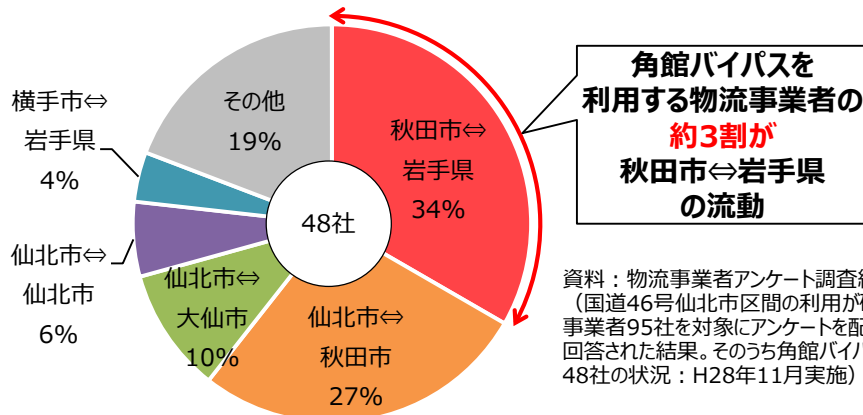
▼盛岡都市圏における輸入コンテナ貨物の搬入先内訳



▼秋田港⇨盛岡都市圏の国際海上コンテナ貨物量の推移



▼角館バイパスを利用する物流事業者の発着地



▼道路利用者の声



○角館地区の通過が、**従来より5～15分短縮**できています。**街中を走らなくても良くなり安全**になり、**以前より快適**になりました。
(コンテナ輸送会社：平成26年3月)

○野菜を輸送する際の**荷くずれが減少**しました。
(物流事業者：平成26年2月)

3. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

4. 事業実施による環境の変化

—

5. 社会経済情勢の変化

- ・H17.9：^{かくのだて}角館町、^{たざわこ}田沢湖町、^{にしき}西木村が合併し、^{せんぼく}仙北市となる。
(人口：H7 角館町：1.5万人、田沢湖町：1.3万人、西木村：0.6万：合計3.4万人→H27 約3.0万人)
出典：国勢調査
- ・H27.8：「農業・医療ツーリズム」のための改革拠点として国家戦略特区（地方創生特区）に指定

6. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はないが、社会状況等の変化に応じて完成形の整備を検討する。

7. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 本事業は一般的な整備効果に加えて、観光期の混雑緩和等地域特有の効果を発現している。同種事業においても想定される地域特有の課題解消や整備効果等について、事業の進捗とともに把握に努める必要がある。
- また、橋梁工事（耐候性鋼材の採用、下部工の見直し等）に関わるコスト縮減等を行っており、同種事業への反映に努める必要がある。